

【学生によるESD活動支援】

平成30年英語パフォーマンス甲子園 支援報告書

国語教育専修1回生 学部1回生 中田 航輔

1. 実施日 平成30年8月24日(金) 13:00~17:30
2. 場所 DMG MORI やまと郡山城ホール(大ホール) 奈良県大和郡山市郡山町211-3
3. 参加者 谷内裕也(教職大学院生) 仲村幸奈、中田航輔、部谷富有(学部生)
林翼(奈良ユネスコ協会青年部)
他大学のボランティア 数名
4. 出場校 奈良県立郡山高等学校 大阪府立豊中高等学校 関西創価高等学校
神戸大附属中等教育学校 奈良県立ろう学校 奈良県立桜井高等学校
関西学院千里国際高等部 奈良県法隆寺国際高等学校 奈良県立青翔高等学校

5. 活動支援内容

平成30年8月24日、英語パフォーマンス甲子園が開催され、本学学生などがスタッフとして運営に携わった。英語パフォーマンス甲子園はESDを大会理念とし、高校生が自ら所属する「文化」を見つめ、それを掘り下げ、英語を用いたパフォーマンスを通じて想いを伝える大会である。近畿圏内から9校の中高校生が集まり、「つながり」というテーマのもと、英語の劇やプレゼンテーションによるパフォーマンスを展開した。



さて、この大会への参加を通じて感じたことを、以下の3点で振り返る。第1にコミュニケーション

日本の『播州皿屋敷』を英語で演ずる高校生

力について、第2に日本人としてのアイデンティティについて、第3に異文化理解についてである。

第1のコミュニケーション力についてであるが、中高校生のパフォーマンスは大半が英語で構成されていたにもかかわらず内容を理解することが容易であった。文法事項をマスターすることは大切なことであるが、コミュニケーションにおいては意見を相手に伝えようとすることや理解しようとする姿勢がより重要であると感じた。

第2の日本人としてのアイデンティティについてであるが、日本の怪談話や書道などの伝統文化が国際言語である英語で表現されているのを見ることで、改めて日本文化の美しさを実感し、自分が日本人であることに喜びを感じた。

第3の異文化理解についてであるが、上で述べたように文化というものの美しさを再確認したことで、日本だけでなくどの国の文化も尊重され継承し続けるべきものであると感じた。



今回、高校生がグローバルな視野から文化を見つめESDに取り組んでいる姿を目の当たりにしてよい刺激を受けた。来年以降の大会にもぜひボランティアとして参加したいと思う。

書道と英語の融合によるパフォーマンス